

受講番号 18004 学校名 中芸高等学校定時制 氏名 西村 雅人

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 15 名
 科目名 英語トレーニング 単位数(授業時数) 1 時間 使用教科書名 なし(プリント学習)

クラスの様子・特徴

英語を苦手とする生徒が基礎から学びなおすための科目。4月当初は全員が「英語が嫌い」と答えている。単語が読めず、アルファベットもあやふやである。英語が読めないという苦手意識がある。しかし「英語をなんとかしたい」という気持ちもある。

問題の確定

英語嫌い・苦手意識を軽減するためにどんな授業をすればよいか？ 初歩的な文法事項の分かりやすい指導方法は？

予備調査

A 授業の観察

英語が読めない(と思っている)ので、音読するとき声が出ない生徒がいる。チャンツや歌で音読練習すると、少しずつ声が出だしたが、2～3人声の出ない生徒がいる。学力差があり、一斉授業だけでは、学力回復できない。

B 生徒による授業評価

アンケート(6月27日実施)によると、中学校当時は全員が「英語が嫌いだった」と答えているのに対して、本校に入学してから「英語が好きになった」と答えた生徒が3割いた。授業で良かったものとして「英語の歌」をあげた生徒は14名中10名いた。

C 学力データ

1学期末テスト 平均点66.6点(最高97点、最低33点)
 アルファベット、単語(複数)の辞書に出てくる順、ローマ字、センテンスの中での動詞の識別、3単現S、一般動詞現在形で疑問文を作る、という6項目の定着度を測った。

リサーチ・クエスチョン

英語への苦手意識を軽減し、基礎学力をつけるためには、どんな指導が効果的か？

仮説・実践・検証

仮説1

学習する文法事項を含む英語の歌を使用して学習すれば、楽しく学習できるだろう。

実践1

9月以降の出席人数は5名前後と少なかったが計画通り実践した。1「First of May(若葉の頃)」を使って、be動詞の現在形と過去形を書き取らせる。歌詞の中から動詞の過去形を探させる。be動詞の部分を音読する。現在形と過去形に注意して歌詞の意味を考えさせる。be動詞の部分を歌ってみる。2「Sailing」を使って、-ing形の意味を考えさせる。youとは誰か考えさせる。

検証1

人数が少ないと元気が出ないのか、教師が気負いすぎて余裕が無かったのか、計画通り授業をしたがクラスが静かすぎて「楽しい授業」にならなかった。生徒は素直に取り組んでいるが、活気が無い。しかし、生徒から曲のリクエストがあったり、アンケート結果や生徒の反応を見ても、英語の歌を楽しみにしていることがわかる。おとなしい静かなクラスであっても、やはり「英語の歌は楽しい」のである。

仮説2

学習事項を含む基本例文をチャンツや英語体操(C佐野正之)などで口頭練習した後、音読筆写すれば、英語が読めるようになり、苦手意識が減少するだろう。

実践2

CHANTS for Grammarの「My name is Larry.」を使ってbe動詞の用法に慣れさせるため、チャンツの英文を口頭練習し、英語体操(C佐野正之)で現在形/過去形の語形変化に慣れさせ、音読筆写プリントに取り組みせ、be動詞の確認テストをした。「声に出しながら書く」という作業に慣れていないのか、ただ黙って書く生徒が多かった。

検証2

確認テストの結果は58.5点と良くなかった。英語体操やチャンツはもっと継続的に取り組まなければ効果は出ないだろう。音読筆写は初めてだったので生徒が違和感を感じたようだった。音読筆写は単語から入った方が良さそう。チャンツに関しては、アンケートでは「リズムを取りながら言葉を発するの楽しかった」「英語を覚えやすい」「発音練習になる」などの肯定的な感想が多かった。

仮説3

音読筆写した基本例文をシャドウイングや同時通訳などのトレーニングをペアで行えば、学習したことが定着するだろう。

実践3

Sailingの歌詞を教材として、歌詞の音読、リズムマシンに合わせて音読する、歌詞を見ないでシャドウイングした。さらに教師がアドリブで言った英語をシャドウイングさせた。生徒は真面目にシャドウイングに取り組み、アドリブの英語にも即座にシャドウイングできた。ただ同時通訳はこの段階ではまだ難しいようだった。

検証3

真面目に取り組んでくれるが、元気がなく、授業が沸き立たない。「シャドウイングは楽しかったですか？」の質問に「はい」と答えた生徒は7人中4人だった。シャドウイングも同時通訳も継続的に取り組んで初めて効果が期待できるだろう。Sailingの歌詞は期末試験にも出題し、好成績だったが、シャドウイングの効果を測るテストではなかったため、テスト作成時に「仮説・実践の結果を検証できるテスト」を考えるべきだった。

研究の成果

授業に来る生徒はやはり、英語の歌が楽しみであるようだ。12月のアンケートの「英語トレーニングの授業を受けて、英語という言葉に対する気持ちは以前とくらべて変わりましたか？」という質問に対して現在の受講者7名中6名が「変わった」「少し変わった」と回答した。理由は「中学の時よりも苦手だと思わなくなった」「読むことが楽しくなった」「分からなかった所が分かるようになった」「英語も大切だと思うようになった」などである。英語嫌い・苦手意識の軽減という課題は幾分は達成できたのではないだろうか。

今後の授業改善の課題

チャンツ、音読筆写、シャドウイング、同時通訳などのトレーニング活動は、やはり毎時間少しづつ継続して習慣化しなければ実力がつかない。今後の課題は「トレーニングの継続・習慣化」である。また、少人数で活気のないクラスであっても「授業は楽しい」と生徒に思わせたい。そのためには、教師自身が授業を楽しむことが不可欠だろう。授業者自身が楽しいと思えるような教材・授業方法を準備することも課題である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-38-2914

電子メール

masato_nishimura@kt4.kochinet.ed.jp